

環境づくりの四つの視点

本校では、児童生徒が主体的に活動するための環境全体を支援環境と捉え、「環境づくり」に視点を当てて、授業づくりを行ってきた。支援環境とは、児童生徒が主体的に活動するための環境全体のことであり、「物理的支援環境」と「人的支援環境」がある。なお、「主体的」とは全てのことを自分一人ですることではなく、他人の力を借りたり補助具を用いたりしながらも、できる範囲のことを自分の力で رفتり、自己の力を可能な限り発揮したりすることと捉えている。

この環境づくりの四つの視点は、富山大学附属特別支援学校の研究を基に、本校で平成25年度より3年計画で行った体育科・保健体育科での授業づくりを進める中で整理してきたものであり、平成28年度からは日常生活の指導において支援環境を整える視点として継続して用いてきた。

この環境づくりの四つの視点は、授業づくりにおいて大切な視点であり、本校の授業づくりにおけるスタンダードとなっている。

【環境づくりの四つの視点】

(富山大学人間発達科学部附属特別支援学校(2012)を参照して一部変更)

物理的 支援環境	① 教材・教具、支援ツールの効果的な配置 a 動線の整理 b 配置位置、間隔 <ul style="list-style-type: none">・ 注目しやすい提示方法の工夫・ 必要なもののみ提示・ 動線にあわせて配置・ 視線の動きに合わせて配置
	② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用 a 理解を助ける b 動きを引き出す c 活動の終わりの明示 <ul style="list-style-type: none">・ 場所、回数、時間の視覚化・ ICT機器の有効活用・ 見るだけでなく触る、匂うなど五感の活用・ 操作しやすく、分かりやすい支援ツールの活用
人的 支援環境	③ 教師の役割 a MTとSTの役割、連携 b 立ち位置、動線 c 効果的な支援の仕方 <ul style="list-style-type: none">・ 定点や始点、終点に立つ・ 子ども同士をつなぐ・ ねらいに迫る問い掛け・ 児童生徒の意欲や達成感につながる評価のタイミング
	④ 児童生徒の役割 a 活動のモデル b 係の役割 c 位置、動線 d ペア・グループ活動 <ul style="list-style-type: none">・ 友達を意識できる席配置・ 「できる」を生かした係活動・ 友達と協力して担う係活動・ リーダーを中心に遂行する活動・ 児童生徒間での相互評価